



特集Ⅱ

# 絵 ハガキ で 辿 る 医 大 史

# 醫 史

# 絵ハガキで辿る医大史

明治33年(1900)から

一般に製作や使用が広まったという絵ハガキ。

この絵ハガキは当時の様子を克明に示すものであり、何を誇りに感じていたかが伺える貴重な資料でもある。

昭和初期に発行された絵ハガキに、当時の誇りの在処をひもとく。

## ◆ 絵ハガキを入れた封筒 ◆

昭和初期につくられた絵ハガキの封筒。新築記念、開校記念など、節目節目に絵ハガキが発行されていたことがわかる。



昭和2年(1927)岩手病院  
「新築建像絵葉書」

昭和3年(1928)岩手医学専門  
学校「開校記念絵葉書」

昭和12年(1937)岩手医学  
専門学校「創立十周年記念」

## ◆ 建物と建学の功労者 ◆

### 岩手病院正門



明治30年(1897)4月20日、岩手県から旧岩手病院を借り受け開設した私立岩手病院。医学講習所・産婆看護婦養成所も併設していた。円内は創立者・三田俊次郎。

### 附属病院本館正面



盛岡市内丸に建設された岩手医学専門学校附属岩手病院本館。円内は岩手医学専門学校附属医院となった際に院長に就任した佐藤三千三郎。

### 岩手医学専門学校全景

岩手県庁から見た岩手医学専門学校の全景と考えられる。後方に雄大な岩手山が広がっている。右手の建物は日赤盛岡支部。



### 岩手病院長杉立先生銅像



岩手病院初代院長・杉立義郎の胸像除幕式は、昭和2年(1927)5月25日、病院中庭で行われた。岩手県知事、盛岡高等農林学校校長、盛岡市会議員、盛岡市医師会会長などが来賓に名を連ねた。三田院長は「我々はその盛徳を永く記念せんがために胸像を建立した」と挨拶で語った。

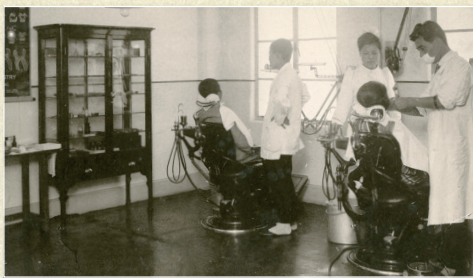
◆ 最新の技術を取り入れた医療現場 ◆

岩手病院眼科診療室



三田院長から引き継いだ遊佐良雄眼科部長が眼科を仕切っていた。

岩手病院歯科診療室



昭和2年(1927)、多田清歯科部長が設備が整った診療室で治療を行っている。

岩手病院耳鼻咽喉科診療室

金野巖部長が耳鼻咽喉科を仕切っていた。患者の服装にその時代を感じさせる。



岩手病院レントゲン科診療室

三田院長は、レントゲンに早くから注目していた。大正7年(1918)には欧州留学中の三田院長の弟の三田源四郎の手を通じて、当時の最新式X線装置をドイツから購入している。右側は工藤祐三内科部長。



標本室(左)と病室(右)



医療にとって大切な基礎資料となる標本が完備されていた。啄木の短歌「ドア推してひと足出れば / 病人の目にはもなき / 長廊下かな」を思わせる廊下は、現1号館に現存する。

## ◆ 「誠の医療人」を育てた学舎 ◆

### 解剖学教室ニ於ケル標本示説



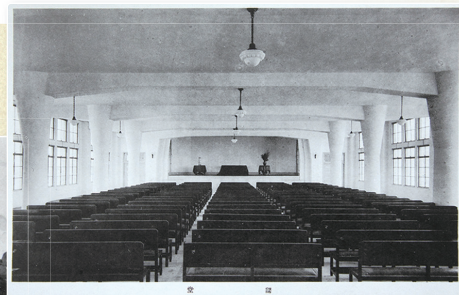
人骨などの標本を用いて人体構造の理解を深める実習。学生は皆真剣な表情で実習を受けている。

### 顕微鏡実習室ニ於ケル標本示説



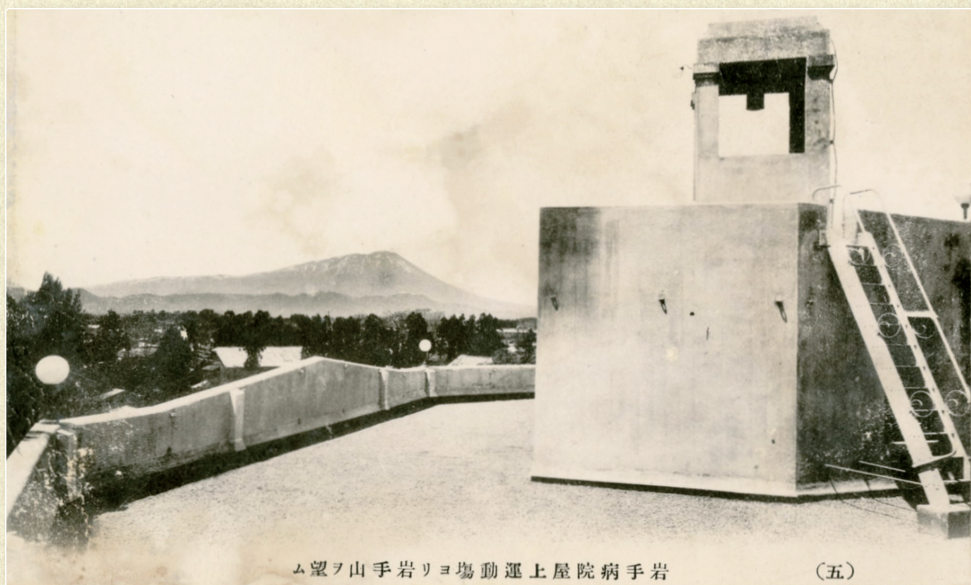
### 教室(左)と講堂(右)

葛西萬司の設計による岩手医学専門学校附属医院の大講堂。貴重な講演などが行われた。



教室を埋め尽くす医学生たちの勉学の様子が撮された1枚。日々熱気に満ちた講義が行われていた。

### 岩手病院屋上運動場ヨリ岩手山ヲ望ム



ム望ヲ山手岩リヨ場動運上屋院病手岩

(五)

岩手病院から望む秀峰岩手山。屋上にあった釣鐘は、定時に鳴らされた岩手病院の象徴的存在。ここから盛岡駅までの市街地を一望できたという。